

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成26年11月20日(2014.11.20)

【公開番号】特開2013-101288(P2013-101288A)

【公開日】平成25年5月23日(2013.5.23)

【年通号数】公開・登録公報2013-026

【出願番号】特願2011-246118(P2011-246118)

【国際特許分類】

G 10 H 1/00 (2006.01)

【F I】

G 10 H 1/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成26年10月3日(2014.10.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

複数の単位区間の各々について旋律が付与された楽曲を生成する装置であって、

複数の文字で構成される指定文字列を取得する文字列取得手段と、

前記指定文字列を区分した複数の文字群を各単位区間に分配する文字割当手段と、

前記複数の単位区間の各々について、当該単位区間に応する各文字群の文字数と旋律

データが指定する旋律の音符数とに応じた旋律評価値を、相異なる旋律を指定する旋律データ毎に算定する文字列評価手段と、

前記複数の単位区間の各々について、当該単位区間に応する前記各旋律データの旋律評価値に応じて前記複数の旋律データの何れかを選択する旋律選択手段と

を具備する楽曲生成装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明の楽曲生成装置は、複数の単位区間の各々について旋律が付与された楽曲を生成する装置であって、複数の文字で構成される指定文字列を取得する文字列取得手段(例えば情報取得部32)と、指定文字列を区分した複数の文字群を各単位区間に分配する文字割当手段(例えば楽曲生成部34/文字割当処理S11)と、複数の単位区間の各々について、当該単位区間に応する各文字群の文字数と旋律データが指定する旋律の音符数とに応じた旋律評価値(例えば旋律評価値EB)を、相異なる旋律を指定する旋律データ毎に算定する文字列評価手段(例えば楽曲生成部34/文字列評価処理S14)と、複数の単位区間の各々について、当該単位区間に応する各旋律データの旋律評価値に応じて複数の旋律データの何れかを選択する旋律選択手段(例えば楽曲生成部34/旋律選択処理S15)とを具備する。以上の構成においては、指定文字列を区分した複数の文字群が各単位区間に分配される。したがって、歌詞の韻律に応じて音符列を生成する非特許文献1の技術と比較して、指定文字列の各文字群と各単位区間の旋律とが自然に対応した楽曲を生成することが可能である。なお、本発明における「旋律」は、複数の音の時系列(音の並び)を意味する。

【手続補正3】**【補正対象書類名】**明細書**【補正対象項目名】**0018**【補正方法】**変更**【補正の内容】****【0018】**

以上の各態様に係る楽曲生成装置は、専用のD S P (Digital Signal Processor)などのハードウェア(電子回路)によって実現されるほか、C P U (Central Processing Unit)などの汎用の演算処理装置とプログラムとの協働によっても実現される。本発明に係るプログラムは、複数の単位区間の各々について旋律が付与された楽曲を生成するために、コンピュータに、複数の文字で構成される指定文字列を取得する文字列取得処理と、指定文字列を区分した複数の文字群を各単位区間に分配する文字割当処理(例えば文字割当処理S11)と、複数の単位区間の各々について、当該単位区間に応する各文字群の文字数と旋律データが指定する旋律の音符数とに応じた旋律評価値を、相異なる旋律を指定する旋律データ毎に算定する文字列評価処理(例えば文字列評価処理S14)と、複数の単位区間の各々について、当該単位区間に応する各旋律データの旋律評価値に応じて複数の旋律データの何れかを選択する旋律選択処理(例えば旋律選択処理S15)とを実行させる。以上のプログラムによれば、本発明に係る楽曲生成装置と同様の作用および効果が実現される。なお、本発明のプログラムは、コンピュータが読み取可能な記録媒体に格納された形態で提供されてコンピュータにインストールされるほか、通信網を介した配信の形態で提供されてコンピュータにインストールされる。